

## 評価結果概要表

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3870200767
法人名	特定非営利活動法人 鼠月
事業所名	グループホーム さつき
所在地	愛媛県今治市泉川町1丁目1-29
自己評価作成日	平成26年8月1日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成26年8月29日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

利用者一人一人の意思を尊重し、それが叶えられるように、職員・経営者共に「寄り添うこと」を大切に考えている。理念に掲げている「穏やかな生活」が出来るよう、利用者ご自身の“家”として、寄り添いながら安心して暮らせるように努めている。  
職員は、利用者の気持を感じ受け止めつつ、「してあげる」ではなく「一緒に、また、困難なことは支え合いながら」と言う姿勢で共に暮らしを支え、炊事、洗濯、掃除や季節ごとの行事を行っている。  
また、ホーム内ではご利用者が季節の花を水盤に活けられており、各所に植物や生花が飾られている。ロビーや前庭で花や植物を眺められるようになっており、職員、来客者、ご利用者共に癒される空間でお茶を楽しんだり写真を撮ったり、アットホームで和やかな雰囲気生活できるよう支援している。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

管理者は、日頃から「相手の立場に立ったケア」を実践できるよう職員に話しておられる。調査訪問日の昼食時、職員は利用者の隣に座り「肉じゃがです」等、丁寧な言葉遣いでメニューを説明しながら、食事の手助けをされていた。生け花がお好きな利用者に、ロビーに飾るお花を活けてもらったり、詩吟の得意な方には、お花見の機会等に皆の前で披露してもらっている。又、おしぼり巻きや洗濯物たため、植物の水やり等、個々に役割を持てるよう支援されている。  
年2回の家族会は、日曜日に開催しており、往復はがきで案内し、ほとんどのご家族が参加されている。春の家族会は、お花見と一緒に楽しみ、秋はテーマを決めて事業所サービスや取り組みを説明し、サービスの向上に向けて話し合っておられる。

### ・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目：11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目：30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目：28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価及び外部評価結果表

## サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

### 【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

### 用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -  
“ 愛媛県地域密着型サービス評価 ”

事業所名 グループホームさつき

(ユニット名) \_\_\_\_\_

記入者(管理者)

氏名

青野 勇

評価完了日

平成 26 年 8 月 1 日

# 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>理念に基づく運営</b>				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 法人及び事業所の基本理念として「支えあい・助け合い」を掲げており、利用者に家庭的な雰囲気の中で穏やかな暮らしと自分らしい生活が守れるようホームの理念を作り上げている。地域の高齢者、そのご家族の助けになるようなホーム作りを目指している。直、職員には理念が出来た背景を話し、その目的を共有できる様に取り組んでいる。運営推進会議でも、事業所の理念について話している。	
			(外部評価) 事業所開設時に、法人代表者である管理者を中心に職員で話し合い、事業所理念を「支えあい助け合いながら笑顔で自分らしく心穏やかな生活」と作成されており、継続して掲げておられる。理念を額に入れて居間等に掲示し、朝のラジオ体操後には、利用者と職員と一緒に唱和しており、毎日のケアを振り返り、理念と照らし合わせながら実践に取り組んでおられる。事業所のホームページにも、理念に込めた管理者の思いを紹介されている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 日々、ご一緒（職員と利用者）に散歩する時などに交わす、地域の人達との会話や挨拶の中でも着実に地域に溶け込んでいると実感を持っている。また、ホーム主催の餅つき大会等でも、ご近所の方にお声掛けするなどし、交流を深めている。	
			(外部評価) 日々の散歩途中に、地域の方と挨拶や立ち話をされたり、又、近隣の方やご家族が、野菜を届けてくださることもある。地域の小学校で開催される敬老会や、近くにある市総合福祉センターの催しには、利用者も出かけて地域の方達と交流できるよう支援されている。12月の「餅つき大会」には、近隣の方にも声をかけ、出来あがったお餅を配られた。ボランティアで沖縄民謡の方が2ヶ月に1回、演劇等の方が年1回訪問してくれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 自治会の集まりなどにも参加し、地域の人達と話す機会を多く持ち、私たちの専門性を活かした分野で相談を受ける等しながら、お役立てできる様、心がけ活動している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議の機会を捉え、自己評価・外部評価の結果や改善計画、入居者の状況、さつきの理念や日常の健康管理、防火安全対策等について議題に取り上げ、その都度ご意見をくみ上げながらサービスの向上に繋げている。	
			(外部評価) 会議には、市の担当者や自治会長、見守り推進委員、ご家族4~5人、法人の理事等が参加しており、参加者の多くが「日曜日」の会議開催を希望していることもあって、今年度から水曜日と日曜日に交互に開催されている。事業所から活動を報告して、意見をうかがっておられ、又、「認知症の理解」を議題にして勉強する機会を設けたり、市の「実地指導」を議題にして、指摘内容やその後の取り組みを説明されたこともある。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 市の担当課には、我々はNPO法人の精神で事業を進めており、お役に立てることがあれば、積極的に社会貢献活動をして行きたい、と言った考えを伝えている。 また、生活支援課(担当者)の方と密に連携をとりながら、サービスの向上及び支援に努めている。	
			(外部評価) 運営推進会議時に、ご家族から「受診時の家族の協力」「会議参加の家族への働きかけ」等について市の担当者へ質問があり、担当者から他事業所の例等をもとに、説明していただいた。会議で、季節ごとに感染予防のアドバイスがあり、事業所も予防接種や予防対策について報告された。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 職員会や勉強会、また、説明会など機会あるごとに身体拘束に関する問題について話し合い、その意識を高めている。なお、その人らしさを奪う行為は、ホームの理念に反する事として厳しく捉え、職員採用時はもとより、折に触れ指導している。	
			(外部評価) 玄関の戸は、日中に施錠せず、開閉時にはチャイムが鳴るようになっている。職員は、新人研修をはじめ事業所内外で身体拘束について学んでおられる。時に、職員の利用者の行動を制限するような言葉が聞こえると、管理者がその場で職員と話し合い、拘束のないケアの実践に向けて取り組まれている。	

# 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 新規採用時には、虐待の具体的内容を挙げ、ホームの基本的姿勢(虐待は許さない)を明確にしている。また、虐待が見過ごされることがないように注意を払いながら、問題意識の徹底を図っている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 運営推進会議等でも権利擁護について取り上げ、話し合いの機会を持っている。また、管理者は民生委員や近隣地域の見守り推進委員の方達とも連絡を取り、積極的に取り組んでいる。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入居時は段階を踏みながら、ホームの現状等の説明を行い、重要事項等の説明を丁寧に行っている。また、何度かホームに来ていただいたり、お宅訪問する等して話し合う機会を設け、利用者やご家族が質問や疑問に感じる点は遠慮なく言っていただく様 常に申し上げており、十分に納得が得られるように図っている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 利用者やご家族には、家族会議等で各ご利用者の諸状況を個別に説明し、その際、意見や苦情等があれば職員や管理者に訴えやすい環境と機会を設け、それを運営に活かせるようにしている。なお、第三者の立場で相談できる人を立て、言いにくい事があれば相談出来る様にもしている。  (外部評価) 職員は、ご家族来訪時には、ご本人の日々の状況を報告しておられ、月1回、管理者は「排泄について」「散歩時の様子」等、利用者個別に手紙に書きご家族に送付されている。年2回の家族会は、日曜日に開催しており、往復はがきで案内し、ほとんどのご家族が参加されている。春の家族会は、お花見を一緒に楽しみ、秋はテーマを決めて事業所サービスや取り組みを説明し、サービスの向上に向けて話し合っておられる。運営推進会にご家族の参加が多くあり、管理者は会議を「ご家族の気持を知る機会」と捉え、今後は、テーマを決めてご家族が意見等を発表するような機会を持ちたいと話しておられた。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 職員会議や勉強会には必ず、管理者兼代表者が出ており、その際に積極的な意見交換を行っている。また、常日頃から職員が意見を出しやすい職場環境作りを心がけており、更に、運営者の方から聴くようにもしている。	
			(外部評価) 職員それぞれに、薬の管理や消耗品の注文等の役割分担があり、責任を持って取り組んでおられる。管理者は、職員の育成に力を入れており、月1～3回程、事業所内で勉強会を行っており、外部研修も積極的に受講して、職員会で研修報告をされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 事業所では、早出や食事係のアルバイトを置くなど、ゆとりのある介護を目指した事業運営をしている。また、二人夜勤制導入に対する取り組みや休日希望制を取り入れ、働く職場環境の充実にも力を入れている。更に、職員にも事業経営をオープンにし、広い視野で事業を取らえられるように図っている。	
			(外部評価)	
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 職員自らが自己評価(一部分)や事業所内で勉強会の機会を多く持つ等して職業意識を高め、さらに広い視野で介護を捉える事が出来るよう取り組んでいる。また、全職員が外部研修を受ける機会を設け、その研修内容を職員会等で発表することで、未受講者への浸透を図っている。なお、要望があれば資格取得に関する経済的な支援もしている。	
			(外部評価)	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) 新しく立ち上がった今治市グループホーム交流会の役員をさせて頂きながら同業グループとの連携が取れるようにネットワークを構築している。また、地域密着型事業所との交流を持ちつつ連携を深めている。	
			(外部評価)	
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 入居前にはご本人と何度も会い、これまでの暮らしについて時間をかけて話を伺い、聴きだせるように努めている。また、事情によって体験入所を勧めるなど、本人の希望(要望)や不安等について傾聴しながら向き合っている。入所時には、管理者が毎日様子を伺い、安心した暮らしが出来る様に支援している。	
			(外部評価)	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 相談を受けた時から入居されるまで、どのような点に困っておられ、どういった点を求めているか、十分に伺う様になっている。ご家族からの不安や相談には誠意を持って応えてゆく事が事業所の運営方針である。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 入居相談時、事情を伺う中で、必要に応じて連携施設や他の事業所、施設等の支援制度(介護保険)について説明し、助言している。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) ラジオ体操やリハビリ体操、唄、レクリエーションを毎日職員と一緒にしており、そうした共同生活の中で支えあう関係を築くことが出来ていると思う。また、関心のある方には、庭の手入れや家事なども一緒に行っていただいている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) ご家族様に、電話やお便り等で利用者ご本人の日頃の様子が常に届くよう、情報を入れている。何時でも話し合いが持て、共に協力しながらご本人を支えていける関係を大切にしている。また、家族会、誕生会やお花見会、餅つき等の季節の行事にはご家族に参加を積極的に呼びかけ、皆で楽しめる機会を設けている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 馴染みにしてきた美容院への送迎支援や、活け花・趣味の展示会等にも行っている。また、お墓参りや入居前にご近所で交流のあった方達との面会支援もおこなっている。 (外部評価) 利用者の希望で年4回、お墓参りに出かけられるよう支援しているケースがある。又、ご家族も一緒に出かけられるよう支援する場合もある。知り合いの訪問時は、住所等を聞き、ご本人から希望があれば連絡できるよう支援されている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) レクリエーションやおやつ、ティータイム、散歩や外出等、利用者同士の交流時間は多い。そうした中で、職員は互いの関係に配慮して座席も決めている。相互関係を大切にする中で支えあえる関係が築かれている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) ここ1年以内では退居者はいないが、これまでは、一度ホームに入居された方のご縁を大切にし、退居後も機会を捉え、入院先に訪ねたりその後の様子をご家族に伺ったり、ご相談にものらせて頂いてきた。	
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 職員会議等において、各ご利用者の経過記録《まとめ》を発表し、カンファレンスを行っている。そのような中で、出来るだけ本人の希望や思い、また、望ましい暮らし(ライフスタイル)の在り方を掴み、暮らしに活かせるよう心がけている。	
			(外部評価) 事業所独自の様式を用いて、食事・排泄・入浴等の現状や趣味やお好きなこと等の情報収集に努めており、年1回更新されている。ご家族来訪時には、利用者が話されたことは何でも伝えてもらえるようお願いされている。	管理者や職員は、利用者の「今」をよく見て把握に努め、記録して介護計画につなげておられるが、さらに今後は、利用者個々の行ってみたい場所や、やってみたいこと、今後の暮らし方の希望や意向等の情報収集にも工夫して、介護計画につなげていかれてはどうだろうか。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居時にアセスメントを行う事や、場合によっては、これまで生活されていたご近所の方にも生活状況をお聴きする等、情報把握に努め、利用者が安心して暮らせる生活環境作りに役立っている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 申し送りや日々の記録から、利用者の心身状態が把握できるようチェック機能を構築している。職員会や勉強会等でもその人に合った過ごし方が出来る様に話し合っている。	



自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価) 担当者を決め、経過記録をつけながらモニタリングを行っている。本人やご家族からは、家族会や面会に来られた折等、ご意見や希望を聴きながら、職員会や勉強会等でカンファレンスをおこなっている。また、ケアポイントといった項目を取り入れる等した仕組みを構築し、現状に合った介護計画を作成している。</p> <p>(外部評価) 事業所は「利用者のご家族の希望」を大切に「職員全員が利用者を見て感じたこと」を採り入れた計画作成に努めておられる。日々の個別記録は、1日1枚でページ毎に短期目標を示し、ケアポイントを○×△で毎日チェックしておられる。1ヶ月毎に経過記録としてまとめ、職員で話し合いモニタリングを行っている。入浴を拒む利用者には、ご家族の提案で、毎月ご家族手作りのカレンダーに、利用者ご本人が入浴した日にシールを貼って確認できるようにされていた。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価) 個人記録の中で、ケアの有り方をわかりやすくまとめて記載し、日々のケアに活かされているか確認(チェック)している。また、日報、夜勤報の申し送りを徹底しており、職員が情報を共有出来る様にしている。</p>	
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 一緒にお墓参りに行ったり、馴染みの理美容院の送迎や医療機関への受診援助、友人や親戚宅等への訪問援助や、希望により自宅への一時帰宅の支援など、出来る事は柔軟に支援している。また、外部ボランティアの活動を受け入れる等もしている。</p>	
29		<p>○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価) 機会を捉えて、普通救命救急講習(蘇生法、AED講習)を受けたり、ボランティアによる演目披露や地域で開催する文化祭や展示会には良く出かけたりしている。また、グリーンピア等の施設を利用し、自然との触れ合いを大切にしている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) ご本人やご家族には、入居時に医療を受ける際の希望を聴き、要望に沿って対応している。また、身体状態の異変や異常には、早期発見・受診を心がけている。また、症状によって医療機関を家族と相談しながら選んでいる。	
			(外部評価) かかりつけ医の受診は、ご本人やご家族の希望に沿って支援されている。現在は、ほとんどの利用者が、協力医療機関をかかりつけ医としており、月1回の往診を受けておられる。他医療機関の定期受診は、ご家族が付き添っており、定期外に受診が必要な場合は、ご家族の都合等も聞きながら対応されている。歯科は、訪問診療を利用できるよう支援されている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価) 日常生活において、利用者の細かな異常や異変に気付く・報告すると言った体制を構築している。受診については、毎日の様子を観察している責任者が、かかりつけ医やご家族と相談しながら対応している。	
			(外部評価)	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	(自己評価) 入退院時には、基本的に管理者自らが責任を持って病院関係者及びご家族等との連絡を密に取り合い、情報交換や相談に努めている。また、関係医療機関の関係者とも日頃から連絡を取り合っている。	
			(外部評価)	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 重度化や終末期の問題は、以前から常々家族会等でも話し合う機会を持っており、入院時や体調急変時には、個別にご家族と意見交換・相談をさせていただいている。連携医療機関やかかりつけ医との問題も事前に話し合っている。事業所として、出来る事や出来ない事を明確にしながら取り組む姿勢を示している。	
			(外部評価) 「終末期の支援について」家族会のテーマにも取り上げ、ご家族に説明をしたり、話し合っておられる。管理者は、事業所でできること、できないことを説明し、ご家族の理解を得た上で「できるだけ長くホームで支援したい」と説明された。今後、利用者やご家族が終末期の過ごし方を選ぶことができるように、地域の医療体制等の環境整備について、運営推進会議等、機会をみつけて話し合ってみてはどうだろうか。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 消防署に依頼し、これまでに何度か、事故・急変時の対応等の訓練を受けている。また、普通救命救急講習を職員会等で発表し、急変時等に適切な対応が出来るよう努めている。なお、事業所としてマニュアルを整備し、各部屋ごとに『急変時の対応について』の掲示もしている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 災害時の避難訓練は全職員が参加するかたちで、年に2回程度行っている。運営推進会議でもテーマに取り上げ話し合っている。災害時の連絡先や自主防災組織図をホーム内に示し取り組んでいる。	
			(外部評価) 今年6月の避難訓練は、夜間火災を想定して行われ、火災通報装置の操作等、業者から説明を受けられた。又、消防署には、訓練日時を事前に連絡して、通報訓練等、電話で協力いただいた。利用者も全員参加して、職員の避難誘導にて、玄関先まで避難する訓練を体験された。居間の掃き出し窓の外のウッドデッキとスロープは昨年度、幅を広げコンクリート造りにして車いすでも居間から庭に出られるよう改善されていた。近隣の方には、避難した利用者の見守りをしてもらえるようお願いされている。水や非常食を1週間分ほど備蓄しておられる。今後さらに、利用者や職員の安全、安心に向けて地震等、いろいろな災害の場面を想定した備えや訓練等を重ねていかれてほしい。	
<b>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 利用者の気分を壊さない声かけやコミュニケーションのとり方は、職員会や勉強会でも、常に心がけるよう話し合っている。採用時はもとより、プライバシーや個人情報を守る事の重要性やそうした職業意識を高める取り組みを行っている。	
			(外部評価) 管理者は、日頃から「相手の立場に立ったケア」を実践できるよう職員に話しておられる。調査訪問日の昼食時、職員は利用者の隣に座り「肉じゃがです」等、丁寧な言葉遣いでメニューを説明しながら、食事の手助けをされていた。生け花がお好きな利用者には、ロビーに飾るお花を活けてもらったり、詩吟の得意な方には、お花見の機会等に皆の前で披露してもらっている。又、おしぼり巻きや洗濯物たたみ、植物の水やり等、個々に役割を持てるよう支援されている。事業所のホームページ内の「アルバム」のページに入るためのパスワードは、ご家族にのみお知らせしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 食べ物や飲み物には出来るだけ選択の幅を持たせ、ご本人の希望に沿うようにしている。また、レクリエーションや作業は強制せず、無理の無い範囲で能力に合わせたものを選んでもらっている。また、普段の関わりの中で、本人がどのような希望や要望を持っているのか、聞いたり感じたりしながら介護に携わっている。	

## 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 職員の都合を優先しないよう常に話し合っている。”自分らしい生活”はホームの理念であり、その人らしい生き方、その人に合ったペースでの暮らしの支援に重点を置くよう、運営者を含めて、職員は心がけている。また、日中、職員の数を増やし、ゆっくりと一人ひとりに向き合う時間を大切にして、利用者の暮らしの希望に添える努力をしている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 職員が利用者の容姿に関心を持ち、その人らしさを大切にしながら暮らせる様に心がけている。ご本人が希望する場合、美容院への予約や送迎支援を行っている。また、利用者専用の化粧箱を用意し、外出やイベントの時などに使用したり、外出時の服装はご自身で選んで頂くようにしている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 副食については、主に外注としているが、週二日『土・日曜日』に、調理の日と決め、利用者の希望に添えるよう心がけている。利用者さんの中には積極的に台所の手伝いをされる方もおられる。また、時には一緒に”お八つ”を作ったり、食材の下ごしらえを手伝ってもらうこともしている。 (外部評価) 事業所で食事作りする「調理の日」を設けており、3年前は月2回であったが、現在は、週2回、利用者の希望も採り入れながら取り組まれている。他の日は、副食を外注されている。調査訪問日の昼食時、利用者はお膳に付いているおしぼりで、個々に手を拭いてから食事をされていた。職員は利用者の中に入り、同じものを食べており、利用者は個々のペースでゆっくりと食事をされていた。利用者が食器拭きや「調理の日」の野菜の下ごしらえ等ができるよう支援されている。秋には庭で芋たきを楽しんだり、誕生会は、ケーキでお祝いをして、ご家族が来られることもあるようだ。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事の摂取量や水分量については、毎食チェックして記録に残し、必要量が取れているか一人ひとり気をつけている。また、嚥下困難な方や偏食の利用者には、形態や調理方法を工夫している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 週に何回か歯科の往診があり、口腔内のチェックをして頂いている。毎食後、歯磨きや義歯洗浄を行い、夜間には定期的に義歯のポリドント消毒をしている。また、口臭の気になる方に関してはモンダミン等を使用しての口腔ケアを行っている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄チェック表に毎日個人の排泄状態を記載しており、職員全員が把握できるようになっている。この表を元に申し送りを行い、毎日排泄トラブルのない支援を心がけている。日中はこまめにトイレ誘導を行い、入居者の状態に合わせた支援を行っている。	
			(外部評価) 利用者全員の排泄チェック表を作成し、個々の排泄パターンに沿って声掛けや誘導を行い、日中は全員の方がトイレで排泄できるよう支援されている。トイレの入り口から便器の傍まで階段状にカーブした手すりを付けており、立ち上がり時にも利用されている。反対側には跳ね上げ式の手すりが設置されていた。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 便秘気味の利用者には、その人の好みや体質等を考えながら豆乳や牛乳等を飲んで頂いたり、適度に運動をして頂くことで、出来るだけ自然排便に向けた支援をしている。また、必要に応じて個人にあった漢方薬(緩下剤)服用等の支援をしている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 入浴時間等の希望を聴き、なるべくご本人の希望時に入浴が出来る様、心がけている。また、身体状態を考慮したり、快適に入浴が出来ることを考え、特殊浴槽を利用する支援を行っている。	
			(外部評価) 水・日曜日以外は、入浴の準備をして希望をお聞きしながら支援しており、毎回入る利用者もある。個別にカゴがあり、ご自分で着替えを準備する方もある。浴槽をまたぐことが困難な利用者が湯船で温まれるように、管理者自らが図面を引き、業者と試行錯誤を繰り返して装置を設置された。現在、すべての利用者に順番に体験してもらっているところである。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 日中、倦怠表情の著しい方には居室で横臥して頂くなど、適時休める無理の無い生活を送れるように支援している。安眠の妨げになる事を出来るだけ排除したり、就寝前にはゆったりと過ごしてもらい、刺激の少ない飲み物を準備して、安眠につなげている。また、睡眠状態をチェックし、日中の過ごし方なども考えた支援をしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 服薬に関する事は、日々の申し送り項目の中に入れ、服薬の変更やあり方等について確認している。また、服薬管理の徹底や利用者の症状、変化に早期に気付く為の取り組みを行っている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) レクリエーションや創作活動、言葉の体操、ことわざや計算等、その方の得手不得手に合わせて声かけし、支援している。また、写真を飾る、唄、メダカを飼う、生け花、庭で草木を愛でる等、個人々の関心事や趣味の中で楽しめる支援を行っている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) お天気の良い日には毎日散歩に出ている。また、いつも行けるといわけではないが、ご本人の希望等もお聴きし、買い物、ドライブ、季節の花見、文化祭・展示会等への外出支援をしている。また、ご家族と一緒に外出の機会が増えるような支援を心がけている。	
			(外部評価) 散歩を毎日の日課にして、近所を散歩できるよう取り組まれている。個別に散歩の頻度をチェックして、少な目の利用者には「○○の花が咲いていましたよ」等、関心のある話題で誘っておられる。ドライブを兼ねて志島ヶ原や市民の森フラワーパーク等へ、季節の花を楽しめるように支援されている。4月のお花見は、ご家族にも案内し蒼社川緑地で楽しまれた。買い物等、利用者個々の希望にも応じて支援されている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) ご本人が希望される場合は、ご家族と相談し、自由に使えるお金をホームでお預かりして外出時等に遣って頂くなど、その人の能力にあった金銭管理を行い支援している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 必要性や希望に応じ、親族や知人との電話連絡等の支援を行っている。また、手紙や年賀状などが出せるような支援もしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 居間から、庭への出入りが自由に出来、玄関からは植物を鑑賞しながら寛げる場所をつくる等、四季の花を楽しめる環境を大切にしている。玄関やロビーには、活け花や観葉植物を飾っており、心地よい生活環境には特に力を注いでいる。また、音などの刺激を防止するなど必要に応じて適時、工夫を凝らしながら支援している。</p> <p>(外部評価) 事業所は、平屋の和風建築で近隣の雰囲気に溶け込んでいる。玄関前には、赤い花が印象的な木があり、ロビー正面の坪庭やお庭等、所々で植物やみどりを楽しむことができる。ロビーや居間の天井の梁や腰板等には木の温もりがあり、居間には、メダカが泳ぐ水槽があり、食卓には観葉植物、壁面には利用者の日々の写真が飾られていた。日中は、ほとんどの利用者が居間で過ごしており、午後にはラジオ体操をされていた。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>(自己評価) ロビーに移り、花を愛でたり、一人でゆっくりと寛いだり、居間では皆と楽しくおしゃべりする等、思い思いにロビーと居間とで空間を使い分け過ごせるようにしている。</p>	
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 入居当時から、馴染みの物や道具を持ってきてくださる様、ご家族にもお願いしており、箆笥や鏡台、仏壇を持って来られている方、亡夫の写真や賞状、人形等を飾られている方もおられる。職員も、ご利用者が居心地の良い居室作りを常に心がけている。</p> <p>(外部評価) 居室の入り口には、管理者が手書きした木製の表札があり、居室ごとに色等が異なるのれんを掛けておられる。ご本人が畳の居室を選び、畳にベッドを設置した居室もみられた。ご自宅から持ち込んだタンスには、引き出しごとに「下着」「ズボン」等と紙を貼り、ご本人や職員がわかりやすいようにされていた。毎朝、仏壇にお茶を供える方もいる。時計を持ち込んでいる方も多い。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>(自己評価) 下肢に障害のある方はなるべく洗面所やトイレの近くに座ってもらったり、椅子や小テーブルの置き場所を決める事や通路や公共の場を塞ぐ形で物を置かないよう整理整頓にも気をつけている。また、安全性と自立度を考え、必要に応じてワイヤレスや滑り止めマットを配置したりしている。</p>	